

おおとり会だより

平成25年4月13日発行

静岡女子短期大学

静岡女子大学

同窓会 おおとり会

おおとり会六十周年 記念総会で お会いしましょう

おおとり会 会長

大石 邦枝



同窓生の皆様、お健やかでいらつしやいますか。辰年生まれの私は誕生日を迎えれば七三歳という年齢になってしまいました。加齢だけは万民共通ですが、生き方は千差万別。百歳過ぎてても現役で活躍している人も大勢います。年齢も意識しつつ楽しく過ごしたいと思っています。

さて、おおとり会は今年六十周年を迎え、本年六月には記念の総会を開催します。昨年の剣祭にも、恒例のバザーに盛大に参加しました。

「静岡女子短期大学十六年誌」によると、静岡女子短期大学は静岡県知事小林武治氏、総務部長斉藤寿夫氏（次代の知事）の女子高等教育に対する見識と熱心な推進によって、城北高校の敷地内に建設するというところで県議会を通過、短期間の間に準備が進められ昭和二十六年三月十五日に文部大臣の設立認可を受け、四月一日開設されまし

た。開学当時は文科英文専攻、家政科家政専攻、家政科被服専攻で募集人数は各四十名でした。その後、国文科専攻ができました。同窓会は一期生卒業の昭和二十八年三月卒業式の直後結成され会長に被服科の牛木琴さんが選出され、規約は他校の規約を参考に藤田先生（当時学生部長）が作られました。当時を知っておられる卒業生には懐かしい話でしょう。

記念の総会には牧之原市出身の今村一貴さんというテノール歌手を迎えてのコンサートを行います。今村さんは浜松学芸高校音楽科を卒業後十九歳でイタリアに留学、イタリア・ベルツィ市の劇場で開かれたコンサートで、その美声と将来性を高く評価されました。国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業後、東京国際芸術協会の助成を受けドイツ国立音楽大学マスタークラス、ウィーン国立音楽大学マスタークラスを終了、ディプロマ取得の二六歳の青年です。秋川雅史氏にその才能を認められ、唯一の弟子として年二百回を超える公演の全国ツアーに同行。現在はクラシックの枠をこえたコンサートや各企業でのディナーショー、ソロでのトークライブなどを行いその確かな歌声とエンターテイメント性で多くの聴衆を魅了しています。是非この機会に多くの方に参加頂いて、その美声を楽しんで欲しいと思っています。

県立大学が開発に関わった記念の品もご出席の皆様にご準備しています。

今年は二年に一度の寄金募集の年です。ぜひ皆様のご協力よろしくお願いたします。



おおとり会 60周年記念同窓会 へのお誘い

会員の皆様お元気ですか。

このご案内が届く頃は、温暖な静岡であれば、華やかな桜の盛りはとうに過ぎ、薫風爽やかな時を迎えていることでしょう。

私たちの「おおとり会」は毎年この薫風の中で母校を会場に「定期総会」を実施して参りました。皆様のご協力を得て、会の運営も軌道に乗り、事業も定着して今日に至っております。

さて、こうした「おおとり会」も平成25年3月1日をもって、満60年となりました。母校を持たない寂しさは拭い去れませんが、これまで手を携えて懸命に進めてまいりましたことを、皆様で祝福致しましょう。また、明日のよき一步の為に集おうではありませんか。
(副会長 長屋梅子)

今回は記念事業として相応しく、会場・内容等に趣向を凝らし、格別なプログラムを用意させていただきました。

テノール歌手（静岡県出身）

今村一貴

がやってくる。

素晴らしい歌声は、私たちを魅了して止まないでしょう。



日時 2013年6月16日(日)
会場 ホテルアソシア静岡

恩師の近況

「私」を生きさせた作家



元 静岡女子大学教授
大津山 国夫

去年は体育の藤田先生、被服の河村先生、英文の小田先生があいついで逝去された。いずれも静岡女子大学の黒柱であった。ご冥福を祈ります。私も八十五歳、すぐあとにつづきます。

八十を越えてから、私の書く文章に芯がなくなつたと実感した。水でうすめたように淡いのである。トシには勝てぬと悟つたので、これを最後の寄稿にさせていたたく。

武者小路実篤は高校の教科書では理想主義の作家、人道主義の作家と呼ばれている。それに誤りはないが、理想主義、人道主義といえは、夏目漱石や宮沢賢治をはじめ多くの作家たちがそうであり、日本文学にはむしろそうでない作家のほうが少ない。武者小路の独自の相貌を表現するとして、「私」を創り、「私」を生きさせた作家と呼びたい。

彼は日本ではじめて、エゴイズムならぬエゴテイイズム（自愛自尊の志向）の探求に徹底した作家であった。エゴイズムとエゴテイイズムの間に確たる境界線はないから、エゴテイイズムの探求はエゴイズムの探求でもあった。彼の文章のなかで最も重要な用語は、自己、自我、自分であり、私、俺、己であった。彼は第一人称を駆使して「私」を創り、「私」を偏愛し、「私」を生きさせた。「私」を生きない人間がどうして他人を生かすことができるか、という不動の信念を確立した。「笑わば笑え、俺は俺」といい、「自分より好きな人は滅多にいない」といい、「正直にいうと自分はやはり天才らしい」と豪語した。このていどの自賛に辟易していたら、武者小路を読むことはできない。彼は時としてキリストにならぶ權威を自分のうちに実感した人であった。正気のさたではない。彼の母はしばしば彼の発狂を心配したという。

しかし自尊と自負のかたまりのような彼が、同時に「恥じては生きていられない」という。ハレンチな人間には無縁の心情であり、深く恥じつづけた人の最後のうめき声であった。自尊と羞恥が表と裏になって彼の生涯を支えた。新しき村で同志と労働をともにしながら、「倒れずにすむだけをかつぎたまえ」といい、「人間は自分に出来ないことはしないでいいのだ」と教えた。恥を知りつくした人の最高の智慧であり、助言であり、愛であった。「私」を生きぬいた彼の名言を紹介して、この短文を終わろう。

○独立独歩で働けるもの、それは自由人。
○人間は、他人を人間にしなれば、人間になれない。
○協力したくないことは爪のあかほども協力したくない。
○暴力で貞操をけがされたからって死ぬのはばかだ。生きる、生きる、人間の命は貞操よりも大事である。



人生は定年から面白い



元 静岡女子大学教授
高瀬 幸子

草薙の丘で見た雪化粧の富士の姿が美しく、生涯忘れられない思い出として甦るのは、誰もが経験することだろう。草薙の里にて研究生活を送れた幸せを思う。今年の年賀状には一富士二鷹三茄子の図を載せて新年のご挨拶をした。

①美しい富士の姿に癒され精神の健康を保つ。②見えない鷹をイメージして、鷹のように強く生き抜く行動力を目指す。③茄子の美味追求により自然食材(ビタミン源と動物性タンパク質)を用いた健康食を自ら作り食育を実践して体力(免疫力)をつけ、7掛け人生(実年齢×0.7歳としての活動)を目指す。

ところで、後期高齢期に入った私の人生目標としては、シンプル、スマート、スマイルの、3S主義を掲げてこれからの7掛け人生を歩むつもりである。具体的には、生活は簡素に、志は高くして考える賢い生活を、精神衛生のため何時も笑顔で臨む。これら3Sの全てが実践されているか疑問であるが、実際に、住むマンションのエレベーターで意識して笑顔で挨拶するようにしている。今までに会話を交わしたことがない人から「こんにちは」と声をかけられる昨今である。

私は奇しくも3回の定年退職を経験した。第一回は静岡県立大学定年、第二回は長崎県立シールポルト大学(現長崎県立大学シールポルト校)定年、第三回は浜松大学定年である。やっと平成二十三年三月に最後の定年退職となり、四月から退職と言う自由な身分の悲喜こもごもの経験をした。望むらくは生涯現役と放言ばかりしている。ある大学教授の言葉のように、確かに定年からは学問は面白いと言える。それは雑事に縛られず、思いつづまま行動が許されるからであろう。学生らと共に夜を徹して実験に取り組んだ生活を思い出し、その実験ノートを眺めると今でも通用するデータであり、当時の静岡女子大学生の優秀さに感服である。

自由な生活では緊張感が低下し仕事のスピードが落ち非能率的になる。まだ研究データの整理が終わっておらず、我が家をつたかせレチノイド研究所と称してその仕事との格闘が当分は続くであろう。その名刺の効力が観面で、家で昼寝ばかりお困りでしょう、と言う方が少なくなつた。一方、人生には社会や人との絆や接触が大切であり、趣味活動も始めてコーラスに参加し声を出すことの心的健康追求を楽しんでいる。年間に複数の学会にも出席し勉強しており、時には研究発表にも頑張っている。学術論文書きの助けになればと上級英語クラスに通い勉強を始めている。以上のように公言したものの成果が出ない場合は悲劇である。その時はスマイルで受け流そうと覚悟している。

この時代に生きて思うこと



元 静岡女子大学教授
榛葉 良之助

私は満一才になった時東京在住で関東大震災に遭遇、多くの地区は焼野原になったが幸いわが家は火事からも免れ家族も生き残った。しかし私には何の記憶もない。大学は二年半の繰上げ卒業となり、海軍技術見習尉官として浜名湖新居の海兵団で三ヶ月の訓練を受けることになり、その後横須賀の第一海軍技術廠材料部第四科に配属された。その同じ場所に秦鴻四先生もおられたがそれを知ったのは終戦後のことになる。その頃から米軍の空襲が激しくなり東京大空襲の際にはB29の大編隊を技術廠の監視台から見上げていた。後日休日を利用して、自分の生まれたわが家を訪れた時、降り立った国電大塚駅から見た町は見渡すかぎり全て灰燼に帰し自宅の焼跡には観音像一体のみが横たわっていたのを覚えていた。(横須賀からの電車が動いていたのを今考えると不思議でならない)技術廠の一部は各地への疎開が始まり四科も静岡の入山瀬(身延線富士宮駅から三つ手前の駅)に移転した。

は至難の技であった。

私はこの地に骨を埋めるつもりであったが家の都合でやむなく帰郷することにした。それが静岡女子短期大学静岡女子大学生諸姉とお会いするきっかけになったのである。その時代食糧はなく、家は焼けた人達が多く、モラトリアムと言って預貯金は封鎖され、絶望と言ったいい程の状態であったが将来に対する不安というものはあまりなく、むしろ復興に対する意欲の方が強かったように思う。ご存じのように日本は現在すばらしい発展をとげ終戦時の様なところは微塵も見当らない、一人一台の自転車、静岡を往復したことを思い出す。今は一人一台の自動車、町には素晴らしい食べ物が溢れていて何一つ不自由なものはない。しかし、今日程将来に対する不安を感じることはない。家庭では高齢化にともない子供孫、曾孫までも見られるようになったが、それにとまなしい色々な問題もかかえるようになった。日本は政治的にも経済的にもそして家庭にもあらゆる面で転換期を迎えている。卒業生の皆様が難しい問題に直面した時、冷静な判断と、ものにくじけない忍耐力をもって幸いをかちとって頂くことを切に念じてやまない。



「拓きし丘」の記

元 静岡女子大学教授
赤石 壽美

「拓きし丘」とは、かつて女子大のあった谷田の校地に建てられた歌碑の言葉です。「この拓きし丘にはげしきもの興るといふにはあらね花滴々」と。開学によせて、昭和四十二年に高原博先生が詠まれた歌です。「花滴々」の歌と言った方が通りがよいかも知れません。ぼくは「拓きし丘」という言葉の方に注目してきました。静岡女子大学のあった谷田の校地は、女子大学のために新し

く拓かれた丘だからです。

静岡に来たのは昭和五十年四月でした。被服の中道先生と教職の沼田先生が一緒でした。一般教育の法学と社会科学演習、専門科目の家族関係を担当しました。真面目によく勉強する学生たちでした。論文式の試験で、100点以外つけようがない答案にも出あいました。

ぼくのゼミは、教室外で学ぶ？ゼミという評があったようです。美術館や文学館、博物館によく出掛け、ゼミ旅行をし、コンパの場所は、静岡、清水のお店だけでなく、ホームマネジメントハウスや流しの下に一升瓶がごろごろしていると評判のゼミ生の下宿にまでおよびました。ぼくは今も、ゼミ生から贈られた美濃焼の湯飲みを愛用し、贈られた香炉で時折遊んでおります。思い出深い女子大時代でした。

設置者が静岡県立大学問題協議会を設置したのは、昭和五十七年でした。これは、女子大学の開学の理念が、わずか十五年で反故と化したことを意味しました。審議事項は設置者が定め、委員の人選も設置者が行いますから、設置者の意向にそった答申が出ることは明らかでした。行政による委員会利用の常道です。旧県立大学は廃止され、新大学が開学したのは昭和六十二年四月でした。薬科大学は薬学部になり、女子短期大学は短期大学部となりましたが、女子大学は解体再編され、消滅しました。設置者による「拓きし丘」の再開発ということになるでしょう。ぼくにできたのは、統廃合の顛末を紀要に記録することだけでした。

最近、証明書類の交付を頼みに行った女子大の卒業生が、学生部の窓口で、こういう仕事は、本来、私たちの仕事ではないと言われたそうです。女子大は校名を刻んだ碑を校内に残すのみで、「君の名は」そのままに、「静岡女子大学・・・」にありき」ということになろうとしているのかも知れないと思つたことでした。この「思い出の記」も、「みづのたはこと」とみられることは必定でしょう。

現在、ぼくは、学生時代から好きだった谷内六郎という画家を研究しています。「郷愁」の画家と呼ばれた「週刊新潮」の表紙絵作家です。



0年のあゆみ



(昭和28年3月 発足)



静岡女子大学周辺の航空写真



静岡女子短期大学 北安東校舎 (昭和26年4月～昭和43年3月)
現在は県立城北高校の校舎が建てられている。



女子大開学当初の階段教室での授業風景 (昭和42年)
「藤田先生の保健体育の講義」



静岡県立大学連合学友会「はばたきの会」
平成18年10月28日 記念植樹



静岡女子大学閉学式 平成2年3月



静岡県立大学谷田キャンパス (昭和62年4月～)

静岡女子大学、静岡薬科大学、静岡女子短期大学を統合して、
県立の総合大学となる。23年の歴史を閉じた。



モニュメント 碑銘「新生への礎」(平成9年6月 建立)
 県立大学10周年記念として寄贈
 県立大学 キャンパス内

おおとり会 6



静岡女子大学



昭和42年4月～平成2年3月の閉学迄、約3,000人の学生が学んだ。



県立大学 剣祭バザー
 平成2年より会員手作りの食べ物や小物が所狭しと並びます。
 「いらっしやいませ、いかがですか？」

歴代学長 (敬称略)

★静岡女子短期大学 (S26.4～S43.3)

- 鈴木 弘 (S26～S31)
- 大杉 繁 (S31～S37)
- 松浦新之助 (S37～S42)

★静岡女子大学 (S42.4～H2.3)

- 松浦新之助 (S42～S44)
- 斉藤 久雄 (S44～S52)
- 森 圭一 (S52～S56)
- 小田 幸雄 (S56～S60)
- 内園 耕二 (S60～H2)

- ★静岡県立大学 (S62.4～)
- ★剣祭へ同窓会バザー参加 (H2.10～)
- ★学友会発足 (H18.2.26～)
- ★同窓会発足60周年 (H25.6)



第1回おおとり会賞としてはばたき寄金へ寄贈
 平成14年4月 静岡県立大学学長室にて

はばたき寄金

『おおとり会賞』の十年のあゆみ

平成十四年から十年間にわたり、おおとり会の名を付した表彰を行っています。受賞団体は毎号の「おおとり会だより」の一面でお知らせしてきました。クラブ・サークル団体等で年間を通じ、顕著な成績を修めた団体、あるいは顕著な活動を行った団体が表彰対象です。第一回の防災ボランティア『防乙』は、第五回でも受賞されています。又、第二回の「ジャズダンス部」も第四回で受賞されています。このようにずっと活発に活動されているのは本当に頼もしい限りです。

受賞団体はスポーツ、ボランティア、芸術と幅広い分野にわたっています。県立大生の、積極的な前向きな学生生活が垣間見られます。最近の受賞団体を次に紹介します。

23年度受賞



第26回 静岡学生サッカー選手権大会
2012年7月17日 エコパスタジアム

21年度受賞



ギター&マンドリン部

21年度受賞



新入生歓迎委員会

「The vivaledge」



平成24年度総会後の懇親会にて
素晴らしいハーモニーを聴かせて
くれました。

平成二十四年度、『おおとり会賞』は、左記の団体が選出され、平成二十四年四月二十二日に行われた開学記念行事において、木苗学長から表彰されました。

十年を一区切りとして、「おおとり会賞」を設けましたが、平成二十四年度からも引き続き行うことになりました。若い世代の活躍を応援できることは、同窓会としての喜びです。

おおとり会バザーの歩み

同窓会として県大の剣祭に初めて参加したのは、平成二年十一月三日でした。「おおとり会」の存在を知ってもらうためにも、なんらかの形で剣祭に参加しようと理事会で決定。準備期間が少なかつたにもかかわらず、大ぜいの会員の協力で売り上げ金四万二千三百十円を会計に入金できました。

「人寄せには何ととっても食べ物が一番」という前会長の提案で二年目の平成三年の剣祭にも参加しました。出品された品々はあつという間に完売し、おおとり会のバザーは学生達にも好評を博し、以来当番幹事の方々の協力のもと、現在に至っています。

二十三回目は平成二十四年十月二十七日、少し風の強い薄曇りの空の下、参加しました。名物のおでん、タイカレーをはじめ、会員手作りのちらし寿司、おにぎり、炊き込み御飯、パン、クッキー、トルティーヤ、金山寺みそ、今はやりの塩こうじ等の食品や手作り小物が数多く出品され、開店と同時に大賑わいで午後一時には完売となりました。特に御飯物は学生さんに人気でした。今年はバルーンアートのコーナーがあり、石川光男氏の指導の下、作品作りに皆さん夢中になっていました。御協力下さいました皆様にお礼申し上げます。来年度は四・九・十四・十九回生が担当です。一人でも多くの方の協力を願います。

剣祭バザー収益金

九六、〇五〇円

同窓会費に入金させて頂きました。



芹沢先生と藍染のこと

被服学科 (短大四回卒)

杉井節子



卒業して五十六年が過ぎました。当時、家政科被服専攻は城北高校の校舎を借用して講義を受けました。隣の畑が「染色した布地の干し場」というのどかな風情でした。今はその面影はありませんが、散歩や買物の折にふれ訪れています。

先日、久しぶりに「芹沢銈介美術館」を訪ね、先生の「色と模様の世界」を堪能しました。私は、先生が昭和三十一年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された前年に、染色理論や染色技術のご指導を直接受けました。今思え

大好きな仕事とともに

国文学科 (大学十三回卒)

小林和子

卒業して30年が経ちました。皆様お元気ですか？ 私は女子大を卒業して洋装店に就職し、10年前に独立して主人と婦人服のセレクトショップを始めました。二人の子供はまだ小学生で大変でしたが、同居していた主人の両親に助けられ家庭と仕事を両立してきました。洋服が好きで接客が好きで楽しく仕事を続けながら子供が学校行事に参加したり少年サッカーの応援にうち込んだり、夫婦で健康の為にスポーツクラブに入会してスカッシュを始めたり、やりたいことをやらせてもらい充実した日々を送ってきました。

卒業してあつという間の30年でしたが、今二人の息子が大学生になり一人暮らしをして大学

ば夢のような貴重な体験だったといえます。先生は助手の方をお連れになり大変丁寧な実習指導をされました。自分で考えた図案を型紙におこし、藍染の藍は本来ならば本藍を使いますが、とても高価なため、藍そっくりに仕上がる化学染料の「ナフトール染料」を使用しました。仕上がりは藍染の良さがはつきりと表現され、わくわくしながら水槽で糊落しました。その瞬間は染色の最大の楽しみでした。

当時の被服専攻は少人数のため、先生と助手の方が私達一人一人の作業工程や完成した作品について、色々な指摘を下さいました。私は努力の積み重ねの尊さと共に創作する喜びを実感しました。今日、芹沢美術館で先生の偉大な業績に接しながら、短大時代に思いを馳せて、至福の時間を過ごすことは大変幸せなことと思います。

生活を満喫しています。子供に重ねて自分の大学時代がとても懐かしく感じ、昨年の夏に久しぶりに国文科同窓会に出席させていただきました。日頃から俳句でお世話になっている関森先生の講演を聴き、学生時代に肩背筋を伸ばし清々しい気分のひとつでした。

接客の仕事では、日々いろいろな出会いや発見があり勉強になることがいっぱいあります。中でもうれしいことは、学生時代の友人が静岡に来るとお店に寄ってくれて、いつでも気軽に会えて昔話に花が咲き楽しいひとときを過ごせることです。大好きな仕事に就いて、ずっと続けていられる幸せに感謝です。



みなさんお元気ですか

現役女子高生が考えたとまとトマトのぷるるんジュレ

食物学科 (大学十四回卒)

杉山真弓

静岡県にお住まいの皆さま、今年一月二日にテレビ静岡で放映された「新春知事対談」ご覧になりましたか？ その番組内で、県知事川勝平太さんと女優工藤夕貴さんが「とてもおいしいですね」と召し上がっていたスイーツ「とまとトマトのぷるるんジュレ」、あれこそ私達(勤務先の高校の生徒達とともに)が考案した地産地消費スイーツなのです。

きっかけは昨年夏に行われた某コンビニエンスストア主催のスイーツコンテストでした。「地産地消」「もつたいない」「ヘルシー」をテーマに静岡市長田地区で栽培しているフルーツ

韓国人とウォーキング

英文学科 (大学十二回卒)

中西晴代

「平成」が始まって二ヶ月後の三月、まだ薄暗い朝六時、大きな旅行カバン一つを持って家を出ました。親には「私が韓国に行くと、絶対に周囲に言わないように」と念を押して。その日から一年半、ソウルで学生生活をしました。奨学金をいただき、日本語を教えるアルバイトに追われ・・・「アジアからの貧しい留学生」さながらの毎日。でも語学学校がある大学の大きな門を、韓国人の学生たちとくぐるたびに、再び「学生」になる機会を得た幸せを感じました。

周囲からは「なぜ韓国に？」、韓国人からは「自国より遅れている国に留学なんて」と怪訝な顔をされ、韓国行きの機内には日本人男性100人の団体ツアー客が・・・そんな「近

トマト「とまとトマト」をジュレにすることを考えました。ジュレにすることで市場に出せない形の悪いトマトも利用できます。ベースのチーズムースは、豆乳を利用して生クリームを減らし、静岡みかんのジュースも加えました。ジュレとチーズムースの相性とその濃度を決める為に毎日遅くまで試作を繰り返しました。こうして「女性にやさしい、ヘルシーなビタミンスイーツ」が出来上がったのです。残念ながら、コンテストでは優勝できなかったのですが、JA静岡さんのご協力で静岡市長田じまん市で土日限定ですが、発売していただけることになりました。この企画に参加した生徒達は忙しいながらも輝いています。どうぞ皆さま、女子高生の考えたスイーツ召し上がってみてください。



くて遠い国」の日韓関係は、03年にNHKで放送された「冬のソナタ」で一変。韓国は、(特に妙齢の?)日本人女性が旅行に行きたい国になりました。静岡では韓国語を使う機会がないまま過ごしましたが、07年から一年おきにソウルから東京まで、日本人と韓国人が寝食を共にしながら50日間歩く「朝鮮通信使 日韓友情ウォーク」が行われて、私も東海道の静岡県の区間に参加。以来、毎年一回、韓国のウォーキング大会にも参加をして、韓国人とウォーキングを楽しんでいます。(でも、韓国語が日本語と似ていることもあって、英語はきれいなさっぱり、記憶の彼方に・・・)



総会報告

平成二十四年六月十日(日) 静岡県立大学小講堂において平成二十四年度おとり会総会が開催されました。初夏の新緑が美しい当日は木苗直秀学長をはじめ、なつかしい恩師の先生方、約百名の同窓生が集いながやかな雰囲気の中、第一部総会、第二部講演、第三部懇親会の式次第で進められました。

総会では、木苗現学長より御祝辞を頂戴しその後平成二十三年度事業報告・決算報告・会計監査の報告が現役員によってなされ、全員の承認を頂きました。更に二十四年度の事業計画・予算案等の話に続き、大石会長からは六十周年の記念総会の話があり第一部が終了しました。



第二部では、静岡県立大学国際関係部の石川准教授の「今日できないことを明日できるようにしたい」との演題ですばらしい講演がありました。十六歳で全盲になられた先生

は、「障害を理由にせず自分のすべきことをする」をモットーに、視覚障害者単独でのパソコン操作を可能にするソフトを次々と開発し障害者の世界を広げてこられました。問題があることで問題を解決するという前向きな姿勢、自分でできることを少しでも増やしたいと力強く次の目標に



挑戦される先生の御講演でした。参加者全員が、何かをいひ訳にしてできないと言われないことを決意しあうなど、小講堂が大きな感動に包まれ、盛大な拍手と共に第二部が終了しました。

その後、はばたき棟地階に場所を移し、第三部の懇親会が行われました。なつかしい恩師の先生方、同窓生、更には現県立大学生との交流が楽しく行われ、学生による赤ペラの演奏に場内がわきました。同窓生との絆、現役生との絆を確認し、平成二十四年度のおとり会総会が終了しました。

当番幹事 国文学科(大学二回卒) 加藤久江

竹澤好美さん(被服科短大二回生)逝く

長い間おとり会活動で、副会長としてご尽力された竹澤好美さんが、平成二十四年十二月一日に急逝されました。

おとり会六十周年記念事業に向けて、ホテルとの交渉や、歌手今村一貴さんとの折衝などに、精力的に携わってこられました。誰よりも総会を楽しみにされていきましたので、さぞかし心残りだったことと思えます。心からご冥福をお祈り致します。

六十周年記念事業の成功の為に、役員一同力を合わせて頑張つてまいります。



訃報

平成二十四年九月八日

元 静岡女子大学学長

小田幸雄先生(九十一才)

御冥福を心からお祈り申し上げます。



平成23年度 決算報告書

総収入 12,636,447円 総支出 1,290,757円 残高 11,345,690円(繰越金)

自平成23年4月1日
至平成24年3月31日
(単位:円)

収入の部					支出の部				
費目	予算額円	決算額円	増減	備考	費目	予算額円	決算額円	増減	備考
受け取り利息	5,000	17,361	12,361	定額郵貯・通常郵貯	事業費(一般)	200,000	147,296	▲52,704	総会 88,238 剣祭 53,118 会報 5,940
基金入金	100,000	97,000	▲3,000	38件	事業費(特別)	300,000	300,000	0	はばたき寄金30,000×10年分(24年度より)
剣祭収益金	60,000	84,560	24,560		会議費	100,000	103,711	3,711	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
雑収入	0	0	0		印刷費	200,000	231,863	31,863	会報・総会案内状・会議用資料・宛名シール
					通信費	400,000	361,500	▲38,500	会報・総会案内状 80×4,100=328,000(ほか)
					慶弔費	50,000	37,291	▲12,709	生花・弔電 各2件
					事務雑費	20,000	9,096	▲10,904	
					予備費	30,000	100,000	70,000	東日本大震災義援金
小計	165,000	198,921	33,921		小計	1,300,000	1,290,757	▲9,243	
前年度より繰越	12,437,526	12,437,526	0		次年度へ繰越	11,302,526	11,345,690	43,164	定額郵貯・通常郵貯・静銀定期・現金
総計	12,602,526	12,636,447	33,921		総計	12,602,526	12,636,447	33,921	

上記の通りご報告致します。 平成24年3月31日
会長/大石邦枝 会計/近藤和恵・瀧浪恵子
監査の結果、相違なく適正と認めます。 平成24年4月7日
会計監査/大倉一美・望月紀子

平成24年度 予算(案)

総収入 11,510,690円 総支出 11,510,690円 残高 0円

自平成24年4月1日
至平成25年3月31日
(単位:円)

収入の部					支出の部				
費目	23年度予算	24年度予算	増減	備考	費目	23年度予算	24年度予算	増減	備考
受け取り利息	5,000	50,000	0		事業費(一般)	200,000	200,000	0	総会・剣祭・会報
基金入金	100,000	100,000	0		事業費(特別)	300,000	200,000	▲100,000	23年はばたき寄金・24年60周年記念準備金
剣祭収益金	60,000	60,000	0		会議費	100,000	100,000	0	役員会・理事会・当番幹事会・会報編集会議
					印刷費	200,000	200,000	0	会報・総会案内状・会議用資料
					通信費	400,000	400,000	0	会報・総会案内状の送付・会議の通知
					慶弔費	50,000	50,000	0	
					事務雑費	20,000	20,000	0	
					予備費	30,000	30,000	0	
小計	165,000	165,000	0		計	1,300,000	1,200,000	▲100,000	
前年度より繰越	12,437,526	11,345,690	▲1,091,836		郵貯・公社債等	11,302,526	10,310,690	▲991,836	
総計	12,602,526	11,510,690	▲1,091,836		総計	12,602,526	11,510,690	▲1,091,836	

*他費目への流用を認める

第21回 草薙の丘の集い

平成24年10月21日(日)、懐しい静岡女子大跡を見学する集まりを開きました。今回、中田修先生も参加して下さい、有志の同窓生と県立大学、県立図書館、美術館等、今も緑の残る草薙近辺を散策し、学生時代を語りあいました。同日、故小泉保先生が眠る久翁寺にも墓参し、お花を手向けてまいりました。

編集後記

六十周年を記念してカラーの会報に致しました。各紙面の彩りが青春を思い出させます。

編集委員 石田加苗・佐藤容子
高橋節子・森 恵美